

関が生んだ俳人

# 惟然

～300回忌をひかえて～

▲弁慶庵

## ひろせ いねん 広瀬 惟然

惟然は江戸時代初期の俳人で、芭蕉門下十哲の一人。慶安元年（1648年）、美濃国関村（現在の関市本町1丁目）の酒造業・広瀬九兵衛の三男・源之丞として生を受けました。幼少のころ、名古屋の裕福な商家に養子として入ったものの、向学心旺盛で、毎日本を読んだり、俳句を作ったりしていました。ある日のこと、鳥の羽風で梅の花が落ちるのを見て世の無常を知り、妻子を残して家を出ました。そして、ふるさとの関村に戻って仏門に入り、安桜山のふもとの小さな草庵に住みました。

貞享5年（1688年）、松尾芭蕉が岐阜を訪れた際に門下となり、以降芭蕉の身近に仕えました。芭蕉亡き後は、芭蕉の俳句を取り入れた「風羅念仏」を創作し、それを唱えながら、ひょうたんを打ち鳴らして念仏踊りに興じる事で芭蕉の菩提を弔いました。また、「奥の細道」を逆にたどるなどして、諸国を乞食行脚しましたが、晩年はふるさとの関村に戻り、宝永8年（1711年）、64歳で亡くなりました。



▲惟然像

# 広瀬惟然300回忌記念俳句大会

惟然翁の遺徳をしのぶため、御縁忌法要に併せて俳句大会を開催します。

**日時** 8月22日(日) 午前9時～正午 ※午前8時30分から香積寺で受け付け。  
※車の方は安桜山駐車場をご利用ください。

**場所** 【法要・講話】 香積寺(東日吉町31)  
【句会】 関市文化会館 第3・第4会議室  
※香積寺から関市文化会館への移動は各自でお願いします。

**内容** ・広瀬惟然 300回忌法要 榊山舜亮さん(香積寺住職)  
・講話「関が生んだ広瀬惟然」 沢木美子さん(惟然研究家、俳人)  
・句会(関市文化会館にて) ※賞多数あり、未発表句に限る

**参加方法** 事前申し込みが必要。はがきの裏面に、句会に投句する俳句2句、住所、氏名を明記の上、8月12日(木)まで(必着)に下記へ郵送してください。なお、投句は当日出席できる方に限ります。  
郵送先：〒501-3882 関市西日吉町50-1 弁慶庵 惟然記念館 俳句大会実行委員会

**参加費** 500円  
※当日、受付でお支払いください。  
※参加費は投句料でもあります。当日やむを得ず欠席された場合でもご負担いただきますのでご了承ください。記念品がありますので、どなたか出席される方に依頼をお願いします。

《お願い》  
◎当日、弔句を受付へ提出してください。惟然翁に関する句で季節は問いません。短冊は各自で準備してください。台紙は白で、銀色の縁のあるものをお願いします。  
◎弔句の書式は、上部3分の1を空けて書き始め、末尾に号または名(氏名可)を記名し、裏面に住所、氏名を記入してください。  
◎当日の句会は、スムーズに進めるため、はがきによる事前投句とします。当日の印象を逸脱した内容は不可とします。

★文化課(関市文化会館内)で配布している開催要項もご参考ください。

**主催** 広瀬惟然300回忌記念俳句大会実行委員会

**照会先** 文化課 ☎24-6455

## 関市史跡 べんけいあん 弁慶庵-惟然記念館-



惟然は、ふるさと関の安桜山のふもとの庵に入りました。日常生活の調度品が膳碗など七品しかない質素な生活をしたことから、弁慶が背負っていた七つ道具にかけ、この庵を“七器山弁慶庵”と名付け、碗箱のふたに「弁慶庵」と自筆して入口に掲げていました。現在は、惟然記念館として公開しています。

◆場所 関市西日吉町50-1 (☎23-9740)

◆開館時間 午前9時～午後4時30分 (入館無料)

◆休館日 月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日、年末年始